

2022年12月期 第3四半期業績 説明会資料



AGC株式会社

2022年11月2日

Your Dreams, Our Challenge

2022年12月期 第3四半期業績	P.3
1. 業績のポイントと主要項目	P.4
2. セグメント別・地域別の状況	P.11
2022年通期業績見通し	P.22
付属資料	P.29

2022年12月期第3四半期（累計）：

（前年同期比）

売上高 **14,989 億円** (+2,653億円)

営業利益 **1,521 億円** (+37億円)

親会社の所有者に帰属する

当期純利益 **988 億円** (▲307億円)

- 第3四半期連結累計期間における売上高は過去最高

2022年12月期通期見通し（修正）：

（従来予想比）

（前年同期比）

売上高 **20,500 億円** (-) (+3,526億円)

営業利益 **1,900 億円** (▲400億円) (▲162億円)

親会社の所有者に帰属する

当期純利益 **920 億円** (▲280億円) (▲318億円)

- 原燃材料価格の高止まりに加え、クロールアルカリ事業の塩ビ市況下落、ディスプレイ事業における急激な需要減少の影響から下方修正

1. 業績のポイントと主要項目

2022年12月期 第3四半期業績

(億円)

	FY2021 1-3Q累計	FY2022 1-3Q累計	増減	主な変動要因 (+)増加要因 (-)減少要因
売上高	12,335	14,989	+ 2,653*	(+) ライフサイエンス、フッ素関連製品、電子部材、建築用ガラスの出荷増加 (+) クロールアルカリ製品、建築用ガラスの販売価格上昇 (+) 円安
営業利益	1,484	1,521	+ 37	上記に加え、 (-) 欧州を中心に原燃材料価格高騰
税引前利益	1,851	1,652	▲ 199	上記に加え、 (+) 土地売却益 (+) 関係会社売却益 (-) 前年同期に北米建築用ガラス事業譲渡益を計上
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,294	988	▲ 307	
為替レート（期中平均）				
JPY/USD	108.50	128.05		
JPY/EUR	129.83	135.95		
原油(Dubai,期中平均)				
USD/BBL	66.19	100.17		

* うち、為替差影響は+1,166億円、連結範囲変更の影響は▲203億円

セグメント別業績 前年同期比較

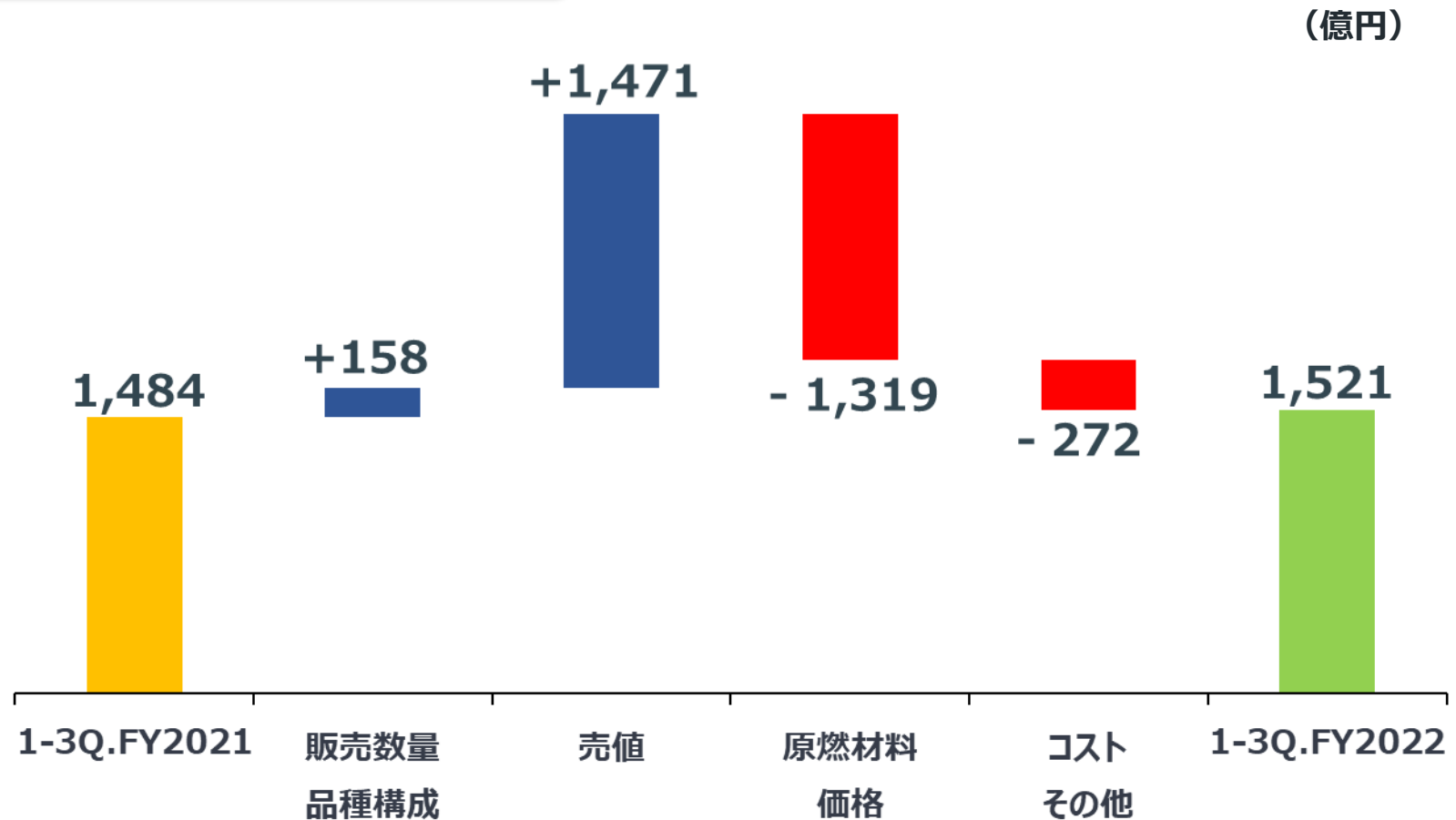
(億円)

	FY2021 1-3Q累計 (a)		FY2022 1-3Q累計 (b)		増減 (b)-(a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス*	5,447	252	6,507	137	+ 1,060	▲ 115
電子*	2,182	245	2,258	123	+ 76	▲ 122
化学品	4,508	960	5,991	1,229	+ 1,484	+ 269
セラミックス・その他	561	28	648	34	+ 87	+ 6
消去	▲ 362	▲ 2	▲ 416	▲ 2	▲ 54	+ 0
連結合計	12,335	1,484	14,989	1,521	+ 2,653	+ 37

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析(1-3Q.FY2022 vs. 1-3Q.FY2021)

前年同期比 37億円増益



	2021/12	2022/9	増減
現金及び現金同等物	1,958	2,641	+ 682
棚卸資産	3,301	4,505	+ 1,204
有形固定資産・無形 資産及びのれん	15,067	16,634	+ 1,567
その他	6,334	6,382	+ 48
資産合計	26,660	30,162	+ 3,502
有利子負債	6,032	6,689	+ 658
その他	5,815	6,072	+ 258
負債の部	11,847	12,762	+ 915
親会社の所有者に 帰属する持分合計	13,142	15,271	+ 2,129
非支配持分	1,672	2,129	+ 457
資本の部	14,814	17,400	+ 2,587
負債及び資本合計	26,660	30,162	+ 3,502
D/E比率	0.41	0.38	

為替差影響
+2,601億円

(億円)

	1-3Q累計	
	FY2021	FY2022
税引前利益	1,851	1,652
減価償却費及び償却費	1,219	1,375
運転資金増減	▲ 306	▲ 852
その他	▲ 409	▲ 595
営業活動によるCF	2,354	1,580
投資活動によるCF	▲ 953	▲ 791
フリーキャッシュフロー	1,401	789
有利子負債増減	▲ 915	224
支払配当	▲ 310	▲ 522
その他	▲ 54	▲ 98
財務活動によるCF	▲ 1,280	▲ 395
現金等に係る換算差額	37	289
現金等の増加額	158	682

	(億円)	
	1-3Q累計	
	FY2021	FY2022
設備投資額*	1,511	1,502
ガラス	367	295
電子	489	553
化学品	644	645
セラミックス・その他	15	10
消去	▲ 3	▲ 2
減価償却費*	1,219	1,375
ガラス	410	420
電子	435	513
化学品	359	430
セラミックス・その他	15	14
消去	▲ 1	▲ 1
研究開発費	361	382

【主な設備投資案件】

- ・自動車用製造窯修繕（ガラス）
- ・ディスプレイ製造窯修繕（電子）
- ・ディスプレイ中国G11投資（電子）
- ・電子部材製造設備増強（電子）
- ・東南アジアクロールアルカリ能力増強(化学品)
- ・フッ素関連製品能力増強（化学品）
- ・バイオ医薬品能力増強（化学品）

など

【主な減価償却費増加要因】

- ・電子部材製造設備増強（電子）
- ・ディスプレイ中国G11投資（電子）
- ・東南アジアクロールアルカリ能力増強(化学品)
- ・バイオ医薬品能力増強（化学品）

など

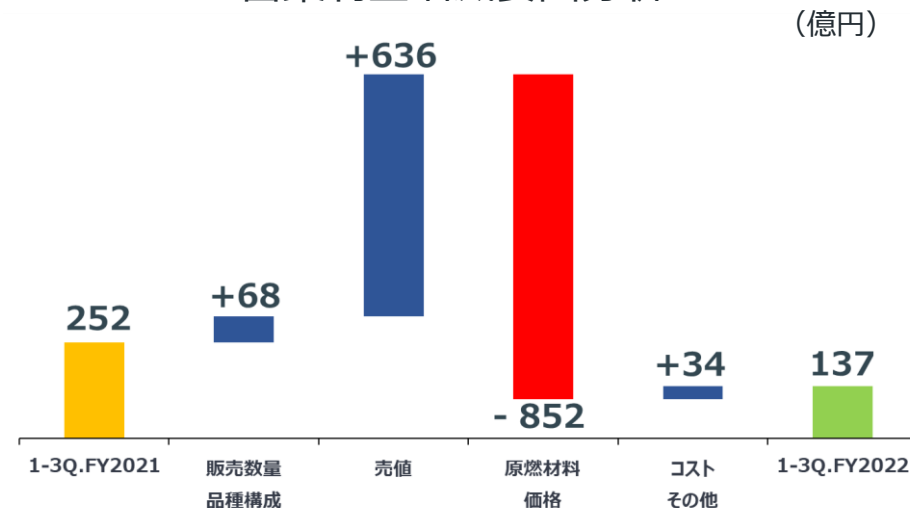
2. セグメント別・地域別の状況

	(億円)		
	1-3Q累計		
	FY2021	FY2022	増減
売上高 **	5,447	6,507	+ 1,060*
建築用ガラス	2,799	3,497	+ 698
自動車用ガラス	2,630	3,002	+ 372
(セグメント間)	17	8	
営業利益 **	252	137	▲ 115

* うち、為替差影響は+534億円、連結範囲変更の影響は▲157億円

** 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析



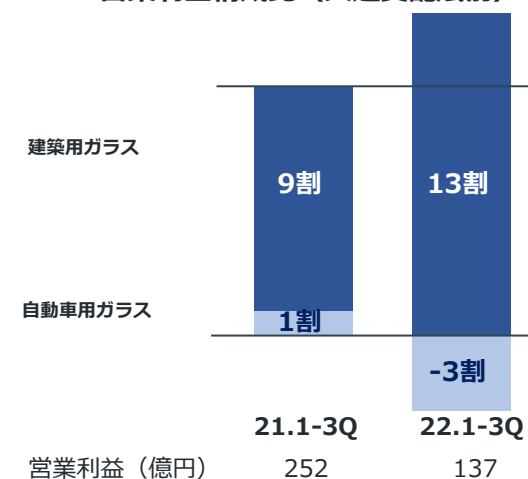
〔建築用ガラス〕

- ・ 日本・アジアで出荷が増加
- ・ 欧州を中心に全ての地域で販売価格が上昇し、北米事業売却による減収影響をカバー
- ・ 欧州の天然ガス価格高騰の影響はエネルギーサーチャージにより吸収も、その他原燃材料高の影響を受ける

〔自動車用ガラス〕

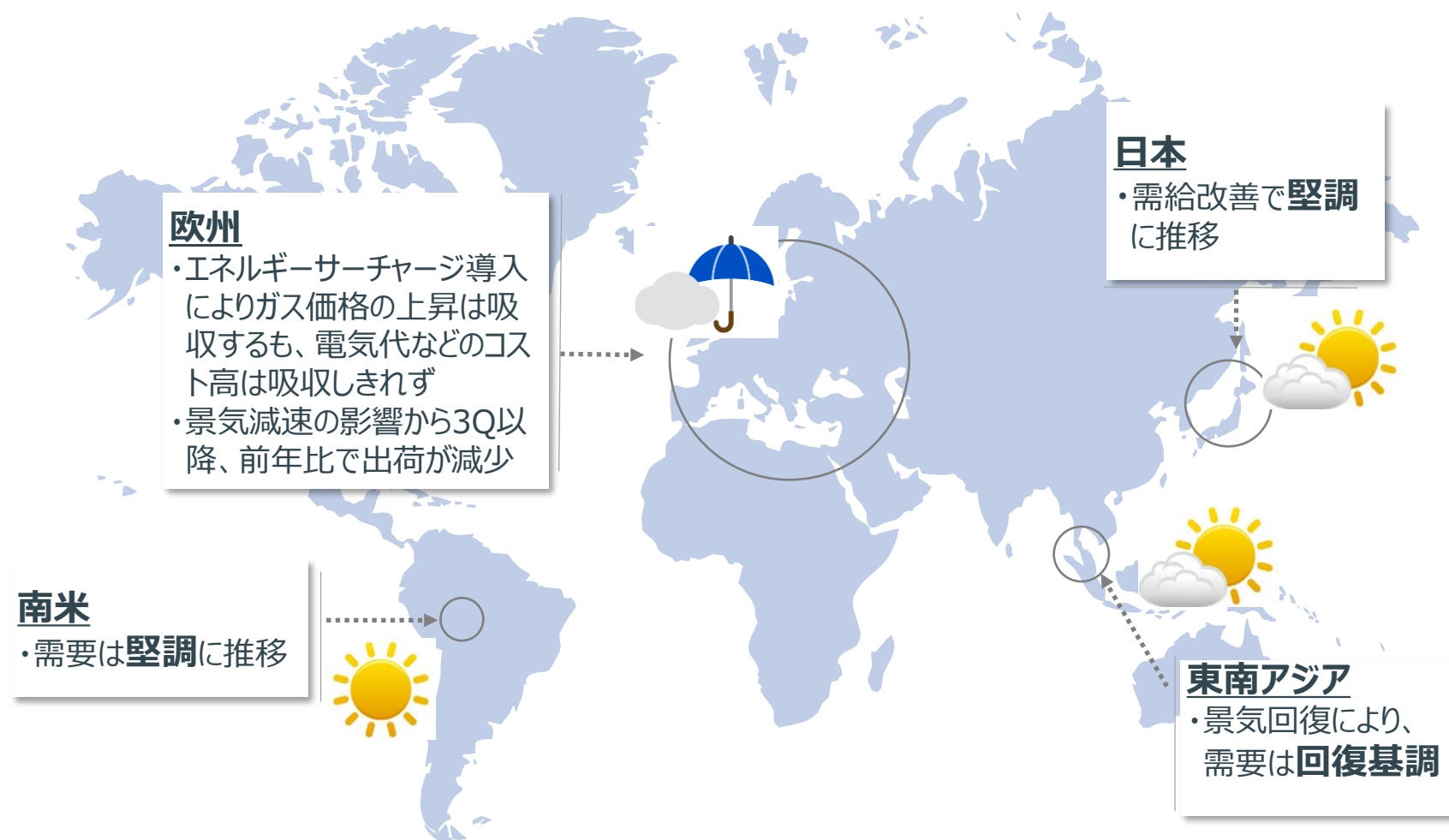
- ・ 半導体を含む部品供給不足の影響の緩和を受け、出荷が増加
- ・ 価格改定効果が発現し始めるも、原燃材料価格の更なる上昇の影響を受ける

営業利益構成比（共通費配賦前）



(ご参考) 建築用ガラス事業の状況

- 日本・アジア、南米は堅調
- 欧州はエネルギー高や景気減退の影響を受け、調整局面

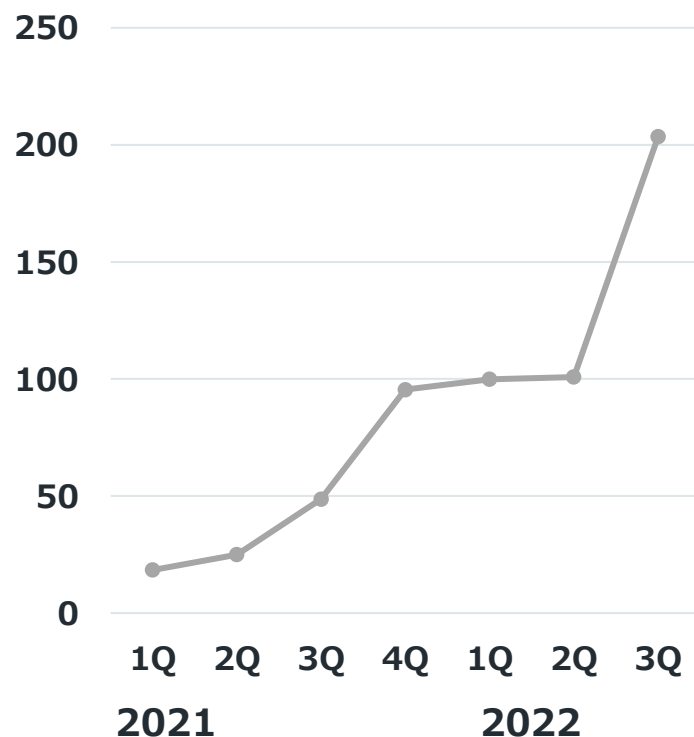


(ご参考) 欧州建築用ガラス事業の状況

- 欧州景気の減退傾向から、一時的に稼働を調整
- 中期的には省エネガラス需要増により、収益性は回復する見通し

TTFガス価格 推移*

(EUR/MWh)



AGCの取り組み

2022年

2月

天然ガス価格上昇を販売価格に転嫁するエネルギーサーチャージを導入

6月

天然ガス供給不安に対応したBCP策定

7月

Lowカーボンガラス を発表

10月

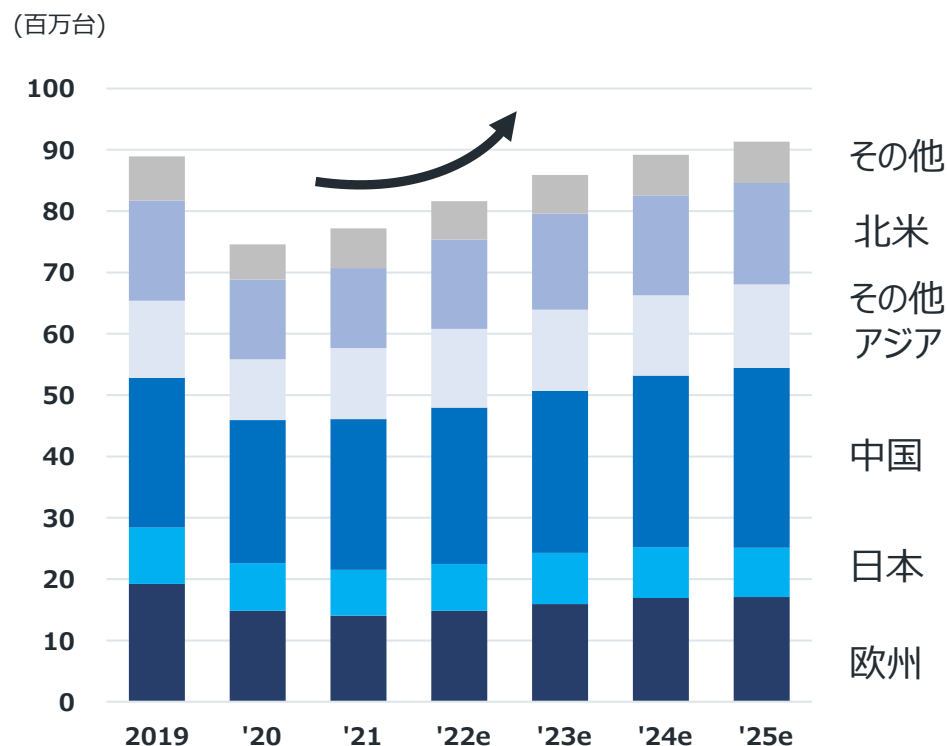
景気減速に伴う需要減に対応し、ブッソワ工場（仏）の窯を一時停止
その他複数拠点でも稼働調整

欧州市場の動向に合わせ、迅速に対応

(ご参考) 自動車用ガラス事業の状況

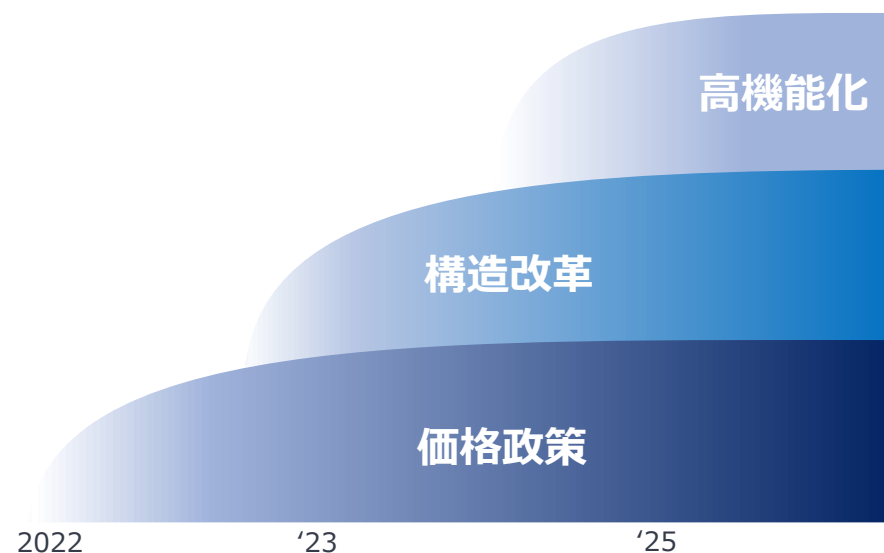
- 22年下期からアジアを中心に市場回復トレンドに、24年には19年レベルに
- ガス価格急上昇に伴い、欧州を中心に更なる価格改定を実施中

グローバル自動車生産台数 推移*



収益改善施策の効果発現イメージ

収益改善の3本の柱



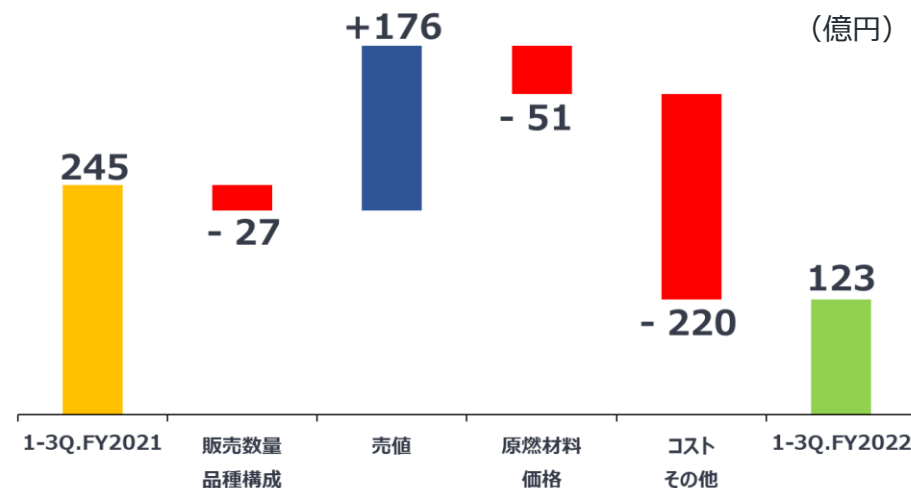
(億円)

	1-3Q累計		
	FY2021	FY2022	増減
売上高 **	2,182	2,258	+ 76 *
ディスプレイ	1,363	1,216	▲ 147
電子部材	805	1,025	+ 220
(セグメント間)	14	17	
営業利益 **	245	123	▲ 122

* うち、為替差影響は+98億円、連結範囲変更の影響は▲36億円

** 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

営業利益増減要因分析



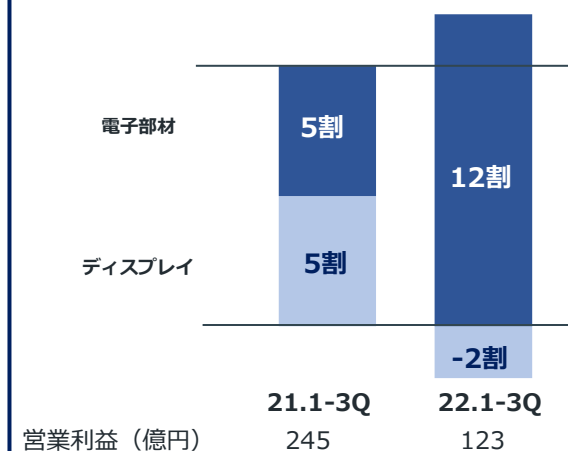
〔ディスプレイ〕

- ・ 液晶用ガラス基板およびディスプレイ用特殊ガラスの出荷は減少
- ・ 液晶用ガラス基板の新規設備立ち上げにより、減価償却費が増加
- ・ 原燃材料高および為替の影響による製造原価上昇

〔電子部材〕

- ・ オプトエレクトロニクス用部材および半導体関連製品の出荷が増加

営業利益構成比（共通費配賦前）



(ご参考) ディスプレイ事業の状況

- 需要は一時的な調整局面にあるが、中長期的にはディスプレイの大型化の進展もあり、安定成長
- 大型パネル生産に最適な生産設備への転換に加え、資産効率の改善に向けた取り組みを加速

パネル需給調整

- TV等、巣ごもり需要の反動

非効率な生産設備

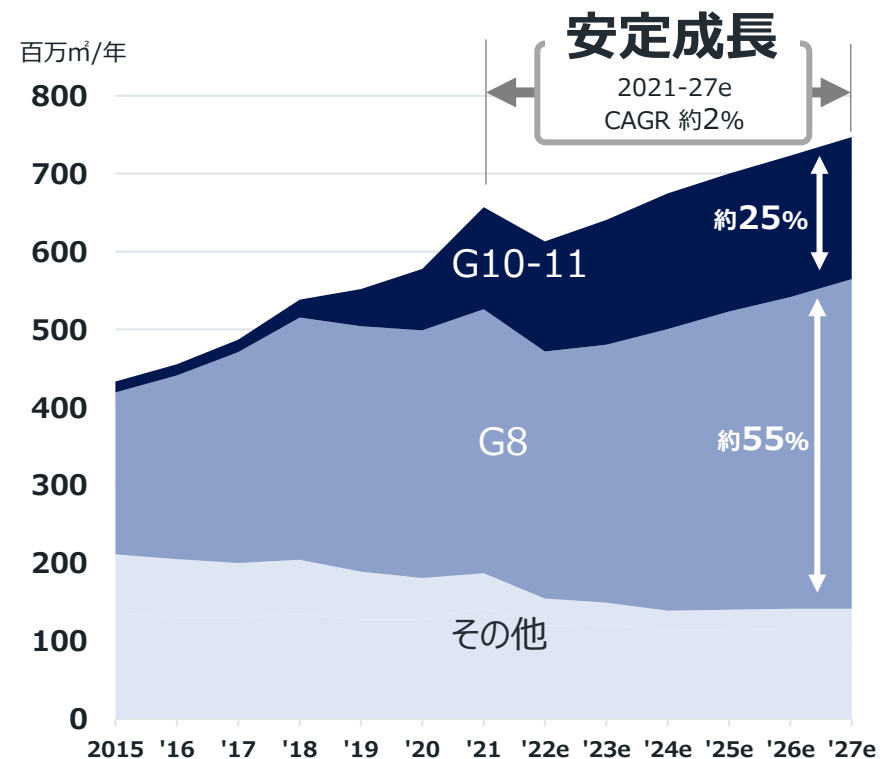
- 大型パネル(G11)に最適化していないライン

原燃材料の高騰・急激な円安の進行

- 原燃材料高・アジア通貨高による製造コスト上昇

- ・中長期的に需要は安定成長へ回帰する見通し
- ・大型パネル生産に最適な設備への転換
- ・抜本的な収益改善策を検討

液晶用ガラス需要推移*

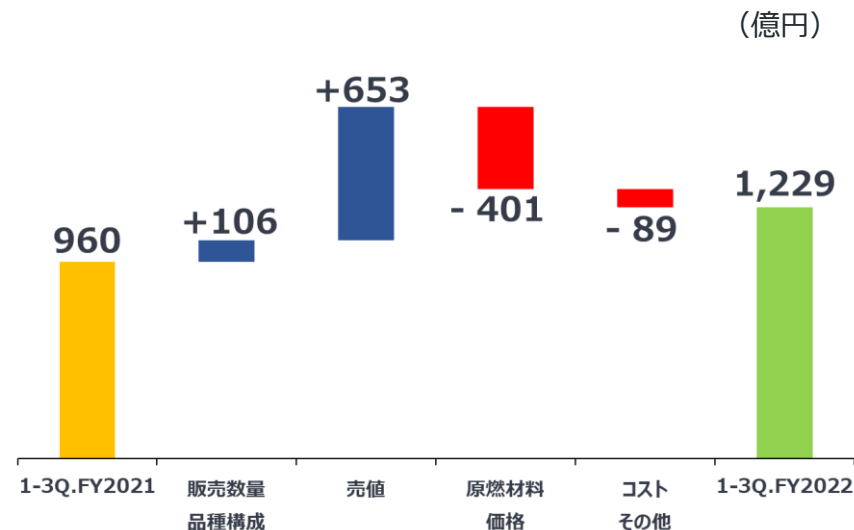


(億円)

	1-3Q累計		
	FY2021	FY2022	増減
売上高	4,508	5,991	+ 1,484*
クロールアルカリ・ウレタン	2,792	3,714	+ 922
フッ素・スペシャリティ	896	1,159	+ 262
ライフサイエンス	809	1,103	+ 294
(セグメント間)	10	15	
営業利益	960	1,229	+ 269

* うち、為替差影響は+517億円、連結範囲変更の影響は▲9億円

営業利益増減要因分析



〔クロールアルカリ・ウレタン〕

- 苛性ソーダ等の市況が堅調に推移したことに加え、円安の影響もあり増収

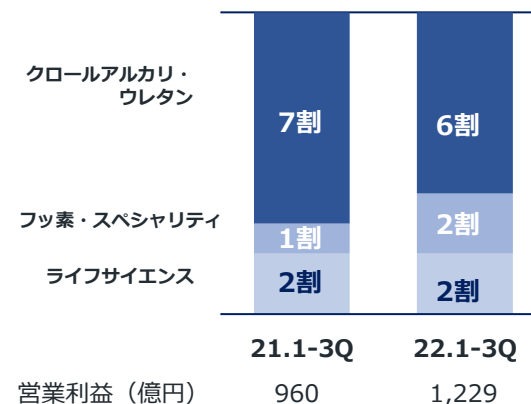
〔フッ素・スペシャリティ〕

- 半導体関連向けを中心にフッ素関連製品の出荷が大きく増加

〔ライフサイエンス〕

- 合成医農薬CDMO・バイオ医薬品CDMOの受託売上が増加

営業利益構成比（共通費配賦前）

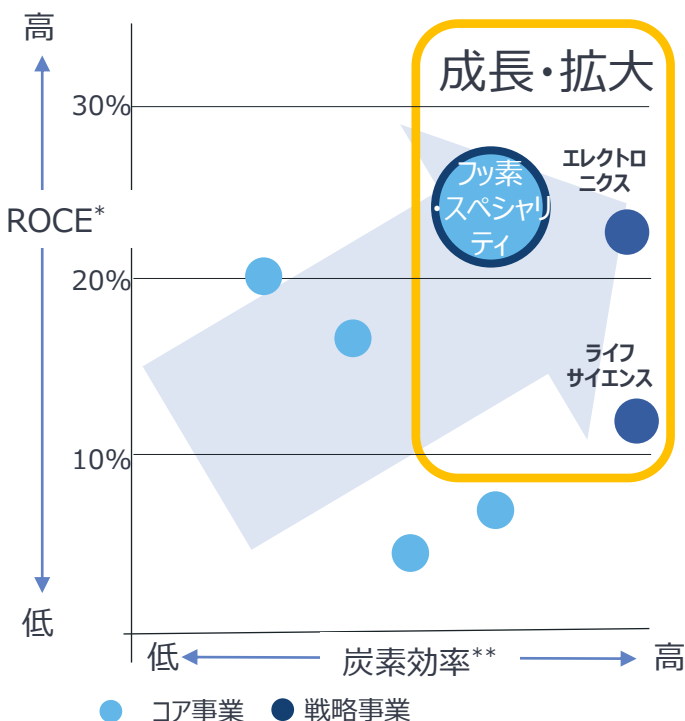


(ご参考) フッ素・スペシャリティ事業の強み

- 資産効率・炭素効率ともに高い成長事業
- 高い技術特性が求められるグローバルニッチ市場で高い評価を獲得
- 2024年には売上高2,000億円以上を見込む

事業ポートフォリオにおける位置づけ

ROCE、炭素効率ともに高く、**成長事業**の位置づけ



グローバルニッチトップ戦略

フッ素の特性を用いた**技術開発に強み**

世界 No.1*** シェア

ETFE樹脂
(フッ素樹脂)



燃料電池膜用
フッ素系電解質ポリマー

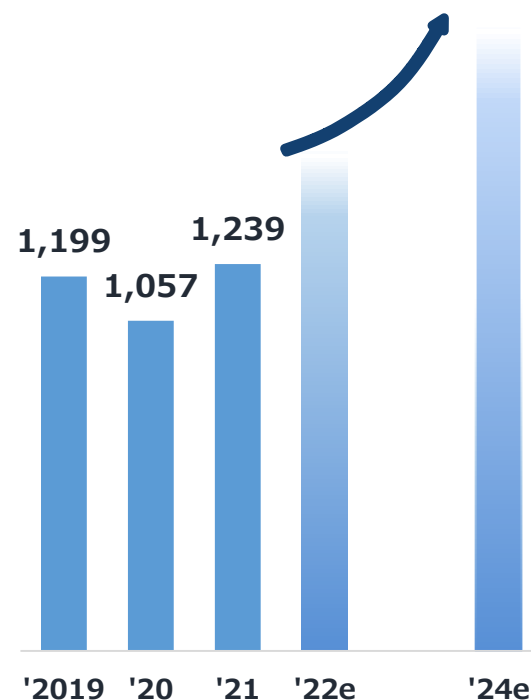
現場塗装用
フッ素樹脂



フッ素・スペシャリティ売上高 推移

(単位：億円)

2,000
億円以上



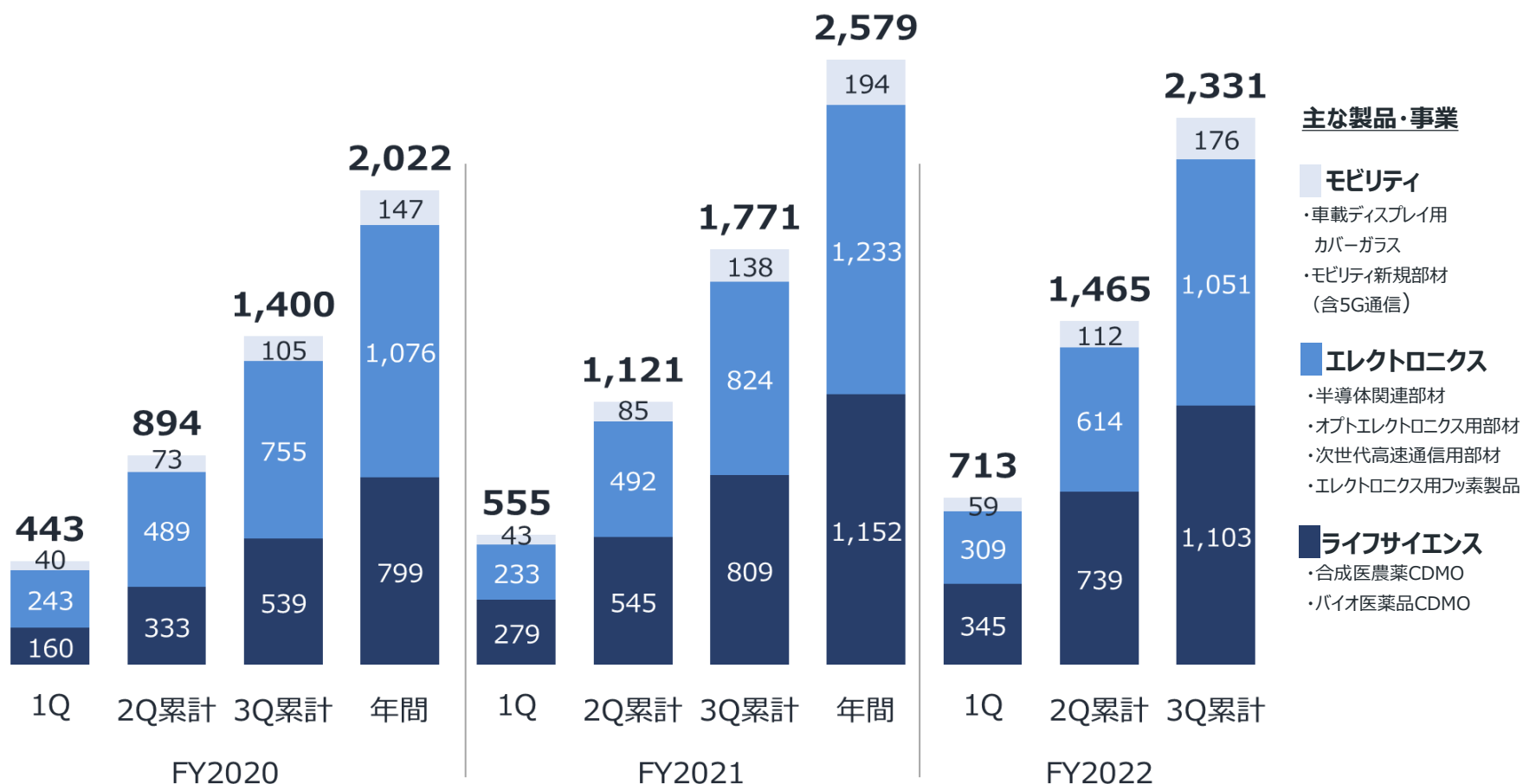
*2023年目標をもとに作成

**2020年売上高あたり排出量(実績)をもとに作成

***2022年1月時点当社推定

■ 順調に業績を拡大

戦略事業売上高推移（億円）



戦略事業
営業利益

93 177 296 444 113 196 346 538 141 276 499

（億円）

地域別業績 前年同期比較

	1-3Q累計		(億円)
	FY2021	FY2022	増減
売上高	12,335	14,989	+ 2,653
日本・アジア	8,118	9,673	+ 1,555
アメリカ	1,316	1,523	+ 207
ヨーロッパ	2,901	3,792	+ 892
営業利益	1,484	1,521	+ 37
日本・アジア	1,351	1,533	+ 183
アメリカ	99	66	▲ 33
ヨーロッパ	321	222	▲ 99
地域共通費用	▲ 287	▲ 301	▲ 14

為替差影響：
+1,166億円

連結範囲変更：
▲203億円

2022年通期業績見通し

2022年 通期業績見通し

■ 本年 8 月発表の業績予想を下方修正

	(億円)		
	FY2021	FY2022 (8/2予想)	FY2022 (11/2予想)
売上高	16,974	20,500	20,500
営業利益	2,062	2,300	1,900
税引前利益	2,100	2,170	1,770
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,238	1,200	920
1株当たり配当 (円)	210	210	210
	(普通配当160円)		
	(特別配当50円)		
営業利益率	12.1%	11.2%	9.3%
ROE	10.2%	9.1%	7.0% *
為替レート (期中平均)	JPY/USD	109.8	131.0
	JPY/EUR	129.9	138.0
原油 (Dubai,期中平均)	USD/BBL	69.2	103.4
エチレン(CFR SEA)	USD/MT	1,141	1,165
			1,053

* FY2022予想のROEは、2021年12月末時点の親会社の所有者に帰属する持分合計を使用しています。

セグメント別 売上高/営業利益見通し

- 売上高はガラスセグメントにおける価格改定、円安影響などから前回予想を据え置き
- 営業利益は、原燃材料の高止まりに加え、塩ビ市況下落、ディスプレイ事業における急激な需要減少の影響から、すべてのセグメントで前回予想を下方修正

	FY2021		FY2022 通期予想(11/2予想)		増減		FY2022 通期予想(8/2予想)		増減	
	(a)		(b)		(b)-(a)		(c)		(b)-(c)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ガラス *	7,343	273	9,000	190	+ 1,657	▲ 83	8,700	300	+ 300	▲ 110
電子 *	3,050	368	3,100	160	+ 50	▲ 208	3,300	300	▲ 200	▲ 140
化学品	6,308	1,388	8,000	1,520	+ 1,692	+ 132	8,100	1,670	▲ 100	▲ 150
セラミックス・その他	794	35	900	30	+ 106	▲ 5	900	30	+ 0	+ 0
消去	▲ 520	▲ 2	▲ 500	0	+ 20	+ 2	▲ 500	0	+ 0	+ 0
連結合計	16,974	2,062	20,500	1,900	+ 3,526	▲ 162	20,500	2,300	+ 0	▲ 400

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

22年4Q見通し

ガラス

(建築用ガラス)

- ・原燃材料価格の高止まり、欧州を中心とした景気減速の影響が懸念される

(自動車用ガラス)

- ・世界の自動車生産台数は半導体を含む部品供給不足の影響から緩やかに回復
- ・原燃材料価格の高止まりの影響が懸念されるが、価格政策見直し効果の発現が見込まれる

電子

(ディスプレイ)

- ・液晶用ガラス基板は液晶パネルメーカー稼働調整の影響、原燃材料価格の高騰および円安に伴う製造原価高止まりが懸念される
- ・ディスプレイ用特殊ガラスは需要期となり、出荷が増加

(電子部材)

- ・オプトエレクトロニクス用部材および半導体関連製品は出荷が増加
- ・プリント基板材料は景気減速による需要への影響が懸念される

化学品

(クロールアルカリ・ウレタン)

- ・苛性ソーダの市況は引き続き高値で推移する見通し
- ・塩ビ市況は4Qに下げ止まる見通し

(フッ素・スペシャリティ)

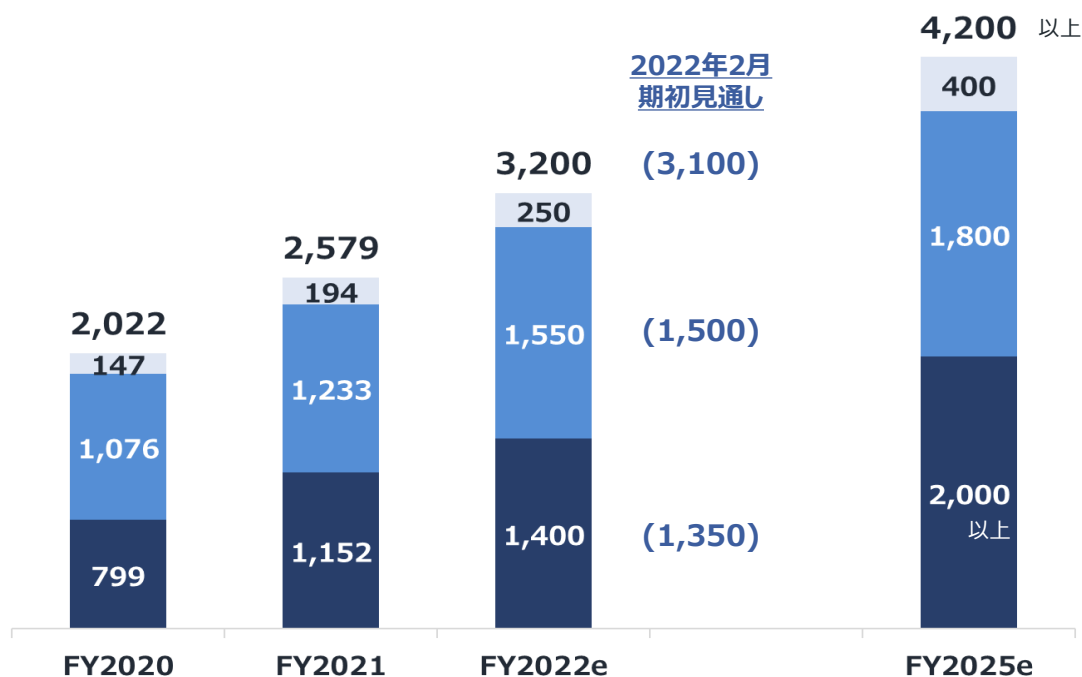
- ・半導体関連向けを中心にフッ素関連製品などの需要が堅調に推移し、出荷が増加

(ライフサイエンス)

- ・合成医農薬CDMOの受託が増加
- ・バイオ医薬品CDMOは3Qに受託売上が集中した反動が4Qに見込まれる

■ 順調に業績拡大する見通し

戦略事業売上高推移（億円）



主な製品・事業

モビリティ

- ・車載ディスプレイ用
カバーガラス
- ・モビリティ新規部材
(含5G通信)

エレクトロニクス

- ・半導体関連部材
- ・オプトエレクトロニクス用部材
- ・次世代高速通信用部材
- ・エレクトロニクス用フッ素製品

ライフサイエンス

- ・合成医薬CDMO
- ・バイオ医薬品CDMO

戦略事業 営業利益

444

538

700

(650)

1,000

以上

(億円)

設備投資額・減価償却費・研究開発費

	年間 (億円)	
	FY2021	FY2022e
設備投資額 *	2,165	2,400 **
ガラス	509	430
電子	696	850
化学品	942	1,100
セラミックス・その他	22	20
消去	▲ 3	▲ 0
減価償却費 *	1,668	1,850 ***
ガラス	546	560
電子	603	690
化学品	500	580
セラミックス・その他	20	20
消去	▲ 1	▲ 0
研究開発費	494	540

【主な設備投資案件】

- ・電子部材製造設備増強（電子）
- ・ディスプレイ窯修繕（電子）
- ・ディスプレイ中国G11投資（電子）
- ・東南アジアクロールアルカリ能力増強（化学品）
- ・フッ素関連製品能力増強（化学品）
- ・バイオ医薬品能力増強（化学品）

など

* 従来「ガラス」及び「電子」に含めていた車載ディスプレイ用カバーガラスについて、会社組織の変更に伴い、当連結会計年度より報告セグメントを「ガラス」に統合

** 2022年2月8日予想金額2,800億円より変更
(変更前：ガラス500億円、電子880億円、化学品1,400億円)

*** 2022年2月8日予想金額1,800億円より変更
(変更前：ガラス540億円、電子680億円、化学品560億円)

AGCブランドステートメント：

易きになじまず難きにつく
人を信ずる心が人を動かす
世界に冠たる自社技術の確立を
開発成功の鍵は使命感にあり

A G Cは、この創業の精神を礎に、
お客様とゆるぎない信頼関係を築きながら、
独自の素材とソリューションで、
時代のトップランナー達を支えてきました。

私たちはこれからも、互いの知見や技術を掛け合わせ、
人々の想いの先、夢の実現に挑んでいきます。

The background of the slide features a silhouette of two climbers on a steep, rocky mountain peak. One climber is higher up, pulling a rope that the other climber is using to ascend. The scene is set against a warm, orange and yellow sunset sky, with the dark, jagged silhouette of the mountain in the foreground.

Your Dreams, Our Challenge

付属資料

セグメント別 ROCE・EBITDA

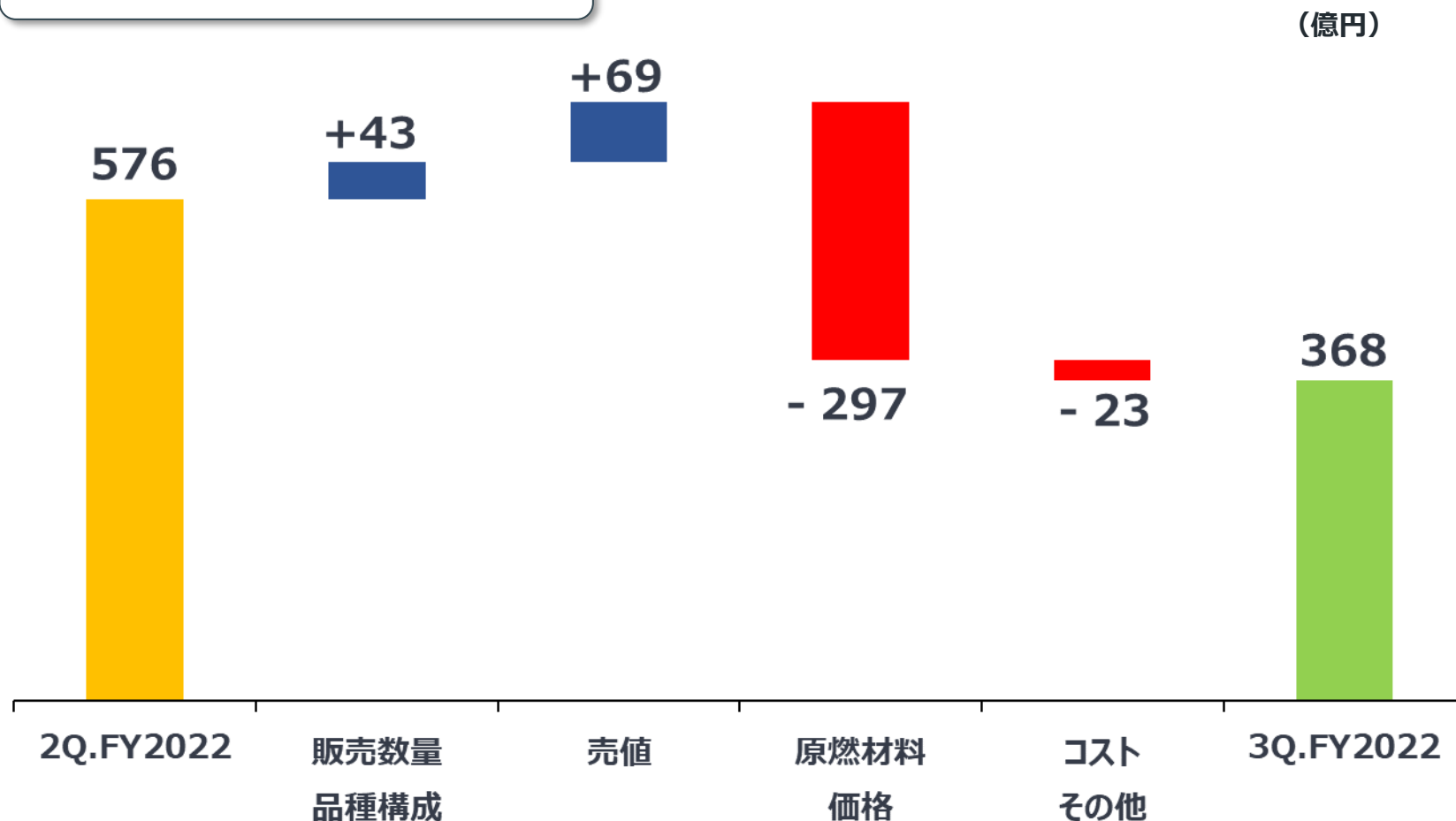
(億円)

	営業利益		EBITDA*		ROCE		営業資産	
	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021
ガラス	▲166	277	344	815	-	4.6%	6,400	6,000
電子	378	364	857	976	6.3%	5.8%	6,000	6,250
化学品	505	1,388	935	1,887	8.9%	21.5%	5,700	6,450
セラミックス・その他	42	35	62	55	14.1%	14.0%	300	250
消去ほか	▲1	▲2	▲2	▲3	-	-	-	-
合計	758	2,062	2,195	3,729	4.1%	10.9%	18,400	18,950

リスク要因	営業利益に対するインパクト	補足
為替	1%円高で <u>7億円</u> *減益	*JPYに対して全ての通貨が同じ割合で動いた場合の影響額
ドバイ原油	1バレルあたり1ドル上昇した場合、 <u>2.6億円</u> *減益	*ヘッジ影響除く
化学品 市況	①苛性ソーダ： 国際市況が\$ 1 下がると\$ <u>1 M</u> の減益 ②塩ビスプレッド： \$ 1 下がると\$ <u>1.2M</u> の減益*	*塩ビスプレッド： 塩ビ市況－（エチレン市況 ×0.5）

営業利益増減要因分析(3Q.FY2022 vs. 2Q.FY2022)

前四半期比 208億円減益



売上高 セグメント・地域別展開 前年同期比較

(億円)

日本・
アジア アメリカ ヨーロッパ セグメント間 合計

ガラス	建築用ガラス	3 Q .FY2022	384	84	776	-	1,244
		3 Q .FY2021	289	98	530	-	916
	自動車ガラス	3 Q .FY2022	568	238	305	-	1,111
		3 Q .FY2021	445	151	213	-	808
		3 Q .FY2022	952	322	1,082	2	2,358
		3 Q .FY2021	733	248	743	5	1,729
電子		3 Q .FY2022	714	54	3	6	777
		3 Q .FY2021	714	74	4	5	797
化学品		3 Q .FY2022	1,556	176	242	6	1,980
		3 Q .FY2021	1,331	98	194	3	1,626
セラミックス・その他		3 Q .FY2022	104	-	-	109	213
		3 Q .FY2021	82	-	-	111	194
消去		3 Q .FY2022	-	-	-	▲ 123	▲ 123
		3 Q .FY2021	-	-	-	▲ 124	▲ 124
合計		3 Q .FY2022	3,326	552	1,328	-	5,205
		3 Q .FY2021	2,861	421	940	-	4,222

売上高 セグメント・地域別展開 前年累計比較

(億円)

日本・
アジア アメリカ ヨーロッパ セグメント間 合計

ガラス	建築用ガラス	1-3Q.FY2022	1,064	227	2,205	-	3,497
		1-3Q.FY2021	855	378	1,566	-	2,799
	自動車ガラス	1-3Q.FY2022	1,550	621	832	-	3,002
		1-3Q.FY2021	1,448	449	734	-	2,630
		1-3Q.FY2022	2,614	848	3,037	8	6,507
		1-3Q.FY2021	2,303	827	2,300	17	5,447
電子		1-3Q.FY2022	2,046	187	9	17	2,258
		1-3Q.FY2021	1,968	191	9	14	2,182
化学品		1-3Q.FY2022	4,742	488	747	15	5,991
		1-3Q.FY2021	3,607	298	593	10	4,508
セラミックス・その他		1-3Q.FY2022	271	-	-	377	648
		1-3Q.FY2021	240	-	-	321	561
消去		1-3Q.FY2022	-	-	-	▲ 416	▲ 416
		1-3Q.FY2021	-	-	-	▲ 362	▲ 362
合計		1-3Q.FY2022	9,673	1,523	3,792	-	14,989
		1-3Q.FY2021	8,118	1,316	2,901	-	12,335

(億円)

ガラス	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22
売上高	1,717	1,851	1,806	1,912	1,729	1,896	1,976	2,172	2,358
建築用ガラス	840	901	891	991	916	1,011	1,038	1,214	1,244
自動車用ガラス	869	943	908	915	808	881	935	956	1,111
(セグメント間)	7	7	7	6	5	3	3	2	2
営業利益	▲ 12	53	95	106	51	21	40	74	23

電子	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22
売上高	715	792	695	690	797	868	760	722	777
ディスプレイ	448	458	461	429	474	457	450	420	346
電子部材	257	316	230	257	318	405	304	296	425
(セグメント間)	10	19	4	5	5	5	5	6	6
営業利益	99	106	87	55	103	123	80	12	31

化学品	3Q.20	4Q.20	1Q.21	2Q.21	3Q.21	4Q.21	1Q.22	2Q.22	3Q.22
売上高	1,091	1,296	1,373	1,508	1,626	1,800	1,922	2,090	1,980
クロールアルカリ・ウレタン	632	755	822	940	1,030	1,112	1,217	1,298	1,199
フッ素・スペシャリティ	250	278	269	299	329	343	356	393	410
ライフサイエンス	207	260	279	265	265	343	345	393	365
(セグメント間)	3	3	3	4	3	3	4	5	6
営業利益	98	180	255	340	365	427	452	474	303

数量・価格動向

				2021				2022		
				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
前年同四半期比（YoY）										
ガラス	建築用ガラス （AGC）	日ア	数量	+1割	+1割強	-1桁半ば	横ばい	+1割	+1割強	+1桁半ば
			価格	-1桁半ば	+数%	+1割	+1割強	+2割弱	+約2割	+2割強
		欧州	数量	微増	+約3割	+1割弱	+3割弱	+10%台半ば	微減	-10%台半ば
			価格	+1割弱	+4割弱	+約4割	+4割弱	+5割弱	+7割弱	+9割弱
	自動車用生産台数 （IHS Markit 9/18データより）	日本	数量	-4%	+55%	-23%	-17%	-13%	-14%	+25%
		北米	数量	-4%	+132%	-26%	-14%	-2%	+12%	+25%
		欧州・ロシア	数量	+1%	+84%	-32%	-23%	-18%	-4%	+22%
電子	ディスプレイパネル需要* （Omdia社）	グローバル	面積	+17%	+10%	-3%	+4%	+4%	-4%	-13%

*Source : Omdia-Display Long-Term Demand Forecast Tracker – 2Q22 Pivot

Results are not an endorsement of AGC Inc. Any reliance on these results is at the third-party's own risk.

		IFRS				
		17/12	18/12	19/12	20/12	21/12
売上高	百万円	1,463,532	1,522,904	1,518,039	1,412,306	1,697,383
営業利益	百万円	119,646	120,555	101,624	75,780	206,168
営業利益率	%	8.2	7.9	6.7	5.4	12.1
親会社の所有者に帰属する当期純利益	百万円	69,225	89,593	44,434	32,715	123,840
自己資本当期純利益率（ROE） ^{*1}	%	6.1	7.7	3.9	2.9	10.2
総資産営業利益率（ROA） ^{*2}	%	5.7	5.4	4.4	3.1	7.9
自己資本比率	%	53	51	50	44	49
D/E（有利子負債・純資産比率）	倍	0.38	0.43	0.47	0.63	0.41
営業CF/有利子負債	倍	0.42	0.35	0.32	0.29	0.54
一株当たり当期純利益（EPS） ^{*3}	円	302.12	399.51	200.85	147.84	559.11
一株当たり配当金	円	105	115	120	120	210
EBITDA ^{*4}	百万円	249,880	259,425	231,857	208,459	383,226
為替レート（期中平均）	円/ドル	112.19	110.43	109.05	106.82	109.80
	円/ユーロ	126.66	130.42	122.07	121.81	129.89

*1 親会社の所有者に帰属する当期純利益/親会社の所有者に帰属する持分合計（期中平均）

*2 営業利益/総資産（期中平均）

*3 当社は、2017年7月1日をもって普通株式5株を1株に併合しています。一株当たり当期純利益は株式併合の影響を踏まえて換算しています。

*4 EBITDA（支払利息・税金・減価償却費控除前利益）＝税引前利益＋減価償却費＋支払利息

その他の財務指標についてはこちらを参照ください。https://www.agc.com/ir/pdf/data_all.pdf

サステナビリティ “製品・技術”を通じて社会的価値を創出

重要機会

AGCグループの主な素材・ソリューション

社会的価値

関連するSDGs

気候変動問題への対応

建築用ガラス、グリーン冷媒、自動車用赤外線カットガラス、バイオマス炉材等

持続可能な地球環境の実現
への貢献



資源の有効利用

燃料電池用部材、リサイクル原料使用製品（ガラス・耐火物等）

社会インフラの整備

建築用ガラス、苛性ソーダ、次亜塩素酸ソーダ、重曹、塩ビ等

安全・快適な都市インフラの
実現への貢献



安全・快適な
モビリティの実現

自動車用ガラスアンテナ、車載センシング・レーダー用部材、HUD部材等

情報化・IoT社会の構築

建物窓取付アンテナ、半導体製造用部材、ディスプレイ用ガラス、高速通信用部材等



食糧問題への対応

農薬原体・中間体、農業温室ハウス用フィルム等

安心・健康な暮らしの実現
への貢献



健康・長寿社会への対応

医薬品原体・中間体、高速通信用部材、水処理用高機能膜等

サステナビリティ“健全な企業活動”を通じて社会的価値を創出

重要リスク

気候変動問題への対応

資源の有効利用

社会・環境に配慮した
サプライチェーン

地域社会との関係・
環境配慮

公正・平等な雇用と
職場の安全確保

AGCグループの企業活動

継続的な省エネ対策実施、GHG排出量を低減する生産技術・設備開発 等

再生原材料や再生資材の活用、埋立て処分の削減 等

人権尊重・環境保護を重視したサプライヤー管理 等

水使用量削減、生物多様性保全、環境事故撲滅、地域のファン作り 等

従業員エンゲージメントの向上、重篤災害・休業災害の発生防止 等

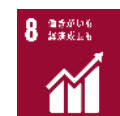
社会的価値

持続可能な地球環境の実現
への貢献

健全・安心な社会の維持
への貢献

公正・安全な働く場の創出
への貢献

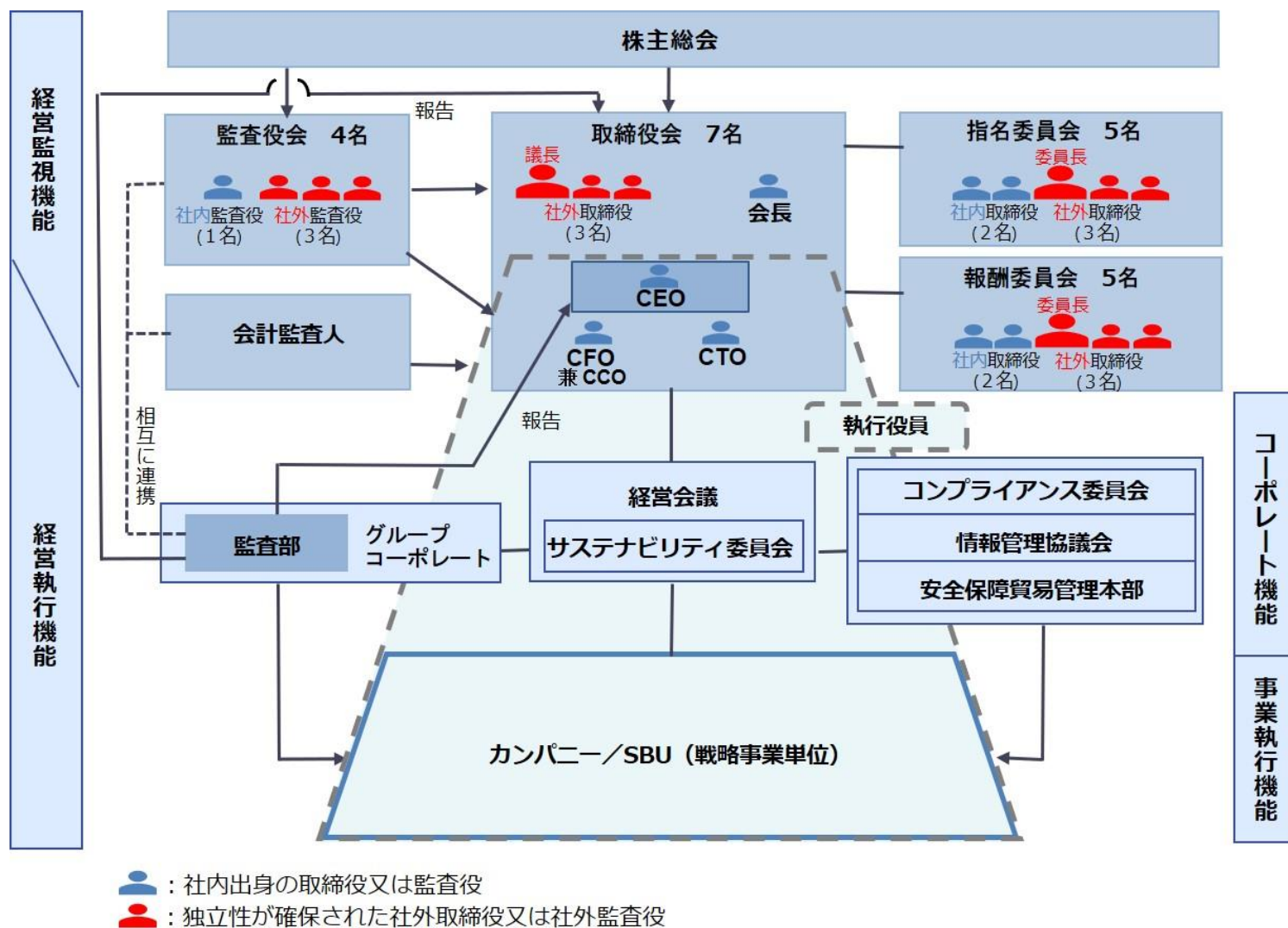
関連するSDGs



2022年 主要発表事項

発表日	内容
1月13日	A G Cの参画するアンモニア燃焼技術開発プロジェクトがNEDO委託事業へ採択
1月25日	EUV露光用フォトマスクブランクス生産能力を倍増
2月8日	中期経営計画 AGC plus-2023 の進捗状況および長期経営戦略「2030 年のありたい姿」実現に向けた取り組みについて
4月6日	スペイン合成医薬品生産拠点の設備増強を決定
5月6日	タイでクロール・アルカリ事業の能力増強を決定
5月10日	自動車用ガラス事業の収益改善策について
5月10日	Solvay Soda Ash Joint VentureおよびSolvay Soda Ash Extension Joint Venture の全株式の譲渡を決定
5月13日	地球温暖化係数の低い次世代冷媒AMOLEA®1123の新組成を開発
5月18日	AGC Biologics社、米国における遺伝子・細胞治療CDMOの製造能力を増強
5月23日	「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加
6月8日	「DX銘柄2022」に選定
6月10日	Scope 3 排出量の削減目標を設定
7月6日	国内建築用ガラス関連製品の価格を改定
7月26日	AGC Glass Europe社、Lowカーボンガラスの発売を発表
8月2日	通期連結業績予想の修正に関するお知らせ
10月3日	国内バイオCDMO 製造能力拡大の検討を本格化
10月11日	インドネシア・タイで生産する建築用ガラスの環境製品宣言（EPD）を取得
10月17日	AGCグループ、インドネシア（アサヒマス・ケミカル社）で再エネ由来の電力購入契約を締結

当社のコーポレートガバナンス体制



FTSE4Good Index Seriesに選定	
FTSE Blossom Japan Indexに選定	
CDP Climate Change A- 評価	
「第5回日経スマートワーク経営調査」4星の格付けを獲得	
女性活躍推進に優れた企業を選定する「なでしこ銘柄」に昨年選定	
「健康経営優良法人2022ホワイト500」に選定	
EcoVadisサプライヤー評価で最高ランクを取得 「PLATINUM」：鹿島工場、AGC Pharma Chemicals Europe社 他国内外複数拠点で高評価	  
Derwent Top 100 グローバル・イノベーター 2022に選定	
「DX銘柄2022」に選定	



Your Dreams, Our Challenge

END

予測に関する注意事項：

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はAGC株式会社に帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。